



実習からはじめる

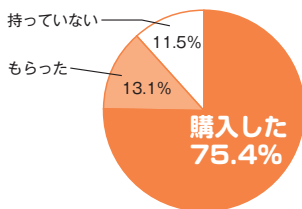
# クエスチョン・バンク(QB)

## 医師国家試験問題解説

### QBは9割の先輩が選んだ過去問題集

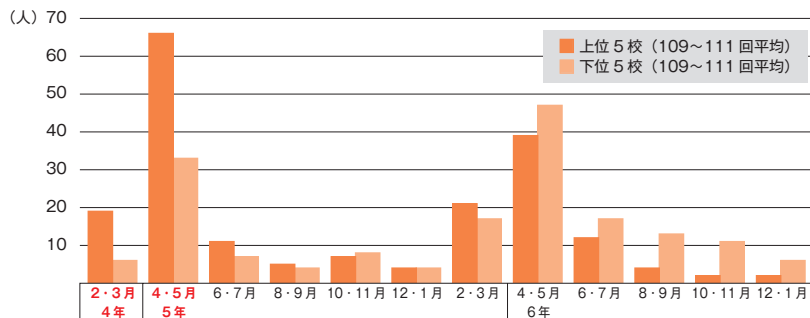
受験生の90%が合格する医師国家試験では、他の受験生が解けない問題を解ける必要がない代わりに、他の受験生が解ける問題を確実に解ける力が求められています。このため、「**国試対策の王道は他の人と同じ対策をすること**」とされています。

実際にどのくらいの人がQBを使っていたのかを、111回国試受験生3,066人にアンケートをとってみたのが、右のグラフです。その結果、「購入した」人、「もらった」人を合わせると、**約90%の人がQBを使っていた**ことがわかりました。



### 過去問対策の開始時期は早い方がよい！

多くの受験生は**5年生の春から国試対策**を始めています。それは、国試までに臨床実習、マッチング、卒業試験と大イベントが目白押しで、国試対策をする時間が限られているからなんです。全国の国公立大学における109~111回国試の実質合格率（合格者数/出願者数）の平均を上位5校と下位5校で比較したところ、QBの購入時期に差がありました。



上位校の方が過去問対策を始めるのが早いことがわかります。そこでオススメしたいのが、実習と合わせてQBを解いていくことです。

# 実習に合わせてQBを解くのが オトクな3つの理由

## ①無駄なくINPUT→OUTPUTできる

●実習期間中はラウンドしている科の勉強をしたり、時間がない場合でも担当の患者さんの疾患だけは勉強したりします。ここで理解 (INPUT) したらそのままにせず、学んだ内容に対応する問題演習 (OUTPUT) まで進めてみましょう。そうすると理解が足りない部分や覚えていない部分が明確になり記憶に定着しやすくなります。病みえやイヤークーノート、ネット講座を見た後に、対応する問題をQBやQBオンラインで解くとよいです。



## ②空き時間を有効活用できる

●実習中って、「1時間後のカンファレンスまで待機」みたいに、ちよくちよく空き時間ができるんです。まとまって時間が空けば大学に戻ってネット講座を見る、みたいなこともできますが、1~2時間だと中途半端ですね。そういう時間にラウンドしている科の問題を解くと、時間を有効活用できます。QBオンラインならスマホでも解けるので場所も選びません。



## ③臨床実習重視の傾向にアンテナを張れる

●間違ってもいいので先に問題を解いておき傾向を体感しておく、普段の勉強でも何が重要かアンテナを張っておくことができます。つまり実習にあわせてQBを解いておくと、結果的にINPUTの効果も上げられるのです。また最近の国試は、診察・検査器具など実習中に見ておかなければ解けない問題が度々出題されます。こうしたことに注意を払うためにも、先にQBで過去問を見ておくことは効果的です。

とはいってもQBはなかなかのボリュームで、1つの科だけでも終わらせるのは大変。そこでQBでは、実習と国試対策が両立できるよう「1周目問題」を用意しています。

1周目問題を使った**“実習と国試対策の両立”!**

詳しくはこちら ▶▶▶

